

会議録

会議名	令和4年度 第1回西尾市学校給食運営協議会
日時	令和4年8月19日（金） 午後1時30分～午後3時00分
場所	西尾市役所 2階 21会議室
出席者	委員 石川雅春、井土小枝子、稲吉直樹、池田明美、阪野知美、山本大輔 石川麻紀、高濱信也、鈴木一将、安井正宏、渡邊恵子、中西里映子 事務局 教育庶務課 齋藤武雄、木下政之、今泉薫、岩瀬康伸、山口哲矢 学校教育課 杉浦智芳、高橋かおり
欠席者	委員 渡邊将司、杉浦小百合
議題	学校給食施設の現状と課題について
<p>1 開会及びあいさつ 教育部長からあいさつ</p> <p>2 会長の選出 石川会長が議長（議事進行）となり、議題に入る。</p> <p>3 議題 学校給食施設の現状と課題について 〈事務局から概要を説明〉 過去の会議において質問された内容について、事務局から説明。</p> <p>4 協議事項 〈議長より協議事項の説明〉 単独調理場を更新するか、集約して給食センターを新設するのか、どちらが総合的に良い判断であるかの意見を書面で提出いただくよう委員に依頼。</p> <p>5 協議事項についての質問 各委員から議題についてご質問を伺った。 〈委員からの主な質問〉 【委員】 給食センターを新設すると市全体のバランスを考えると場所が偏ると思いますが、西尾市学校給食センターを大きくして全部の給食を賄うことは可能ですか。 【事務局】 新設場所は、給食の配送を考え選定することになります。 西尾市学校給食センターは、旧一色町、旧吉良町、旧幡豆町の3つの給食センターで作られていた給食を賄う前提で、5千食規模の施設を建設しました。市内全校の給食を賄うには1万5千食必要で、増設等に対応することは難しいと考えます。 【委員】 建替えや解体の際にはアスベストの問題が心配ですが、確認はしていますか。</p>	

**【事務局】**

大枠ではアスベストの含有は把握しており、被爆しない状態です。建替えや解体の際にはしっかりと確認し、問題の無いように対策をとります。

**【委員】**

アレルギー対応に関して、アレルゲン食材混入のリスクを低減するには、献立作成と原材料の選定が重要ですが、調理施設の説明で説明されなかったのはどうしてですか。

調理施設を検討される際には、以上のことに加えて、アレルギーを有する児童生徒の情報を正確に把握する必要があります。食数を正確に把握しなければ、適正な規模のアレルギー対応室を建設出来ないので、正確なアレルギー情報を保護者から提出してもらう工夫も内容に入れていただきたい。

**【事務局】**

今回はあくまで建物の建設という観点から考えているため、説明に入れませんでした。アレルギー対応マニュアル等作成の際には、献立作成、原材料の選定、正確なアレルギー情報を保護者から提出してもらう工夫を内容に盛り込みます。

**【委員】**

アレルギー専門医の委員、アレルギー支援ネットワークの委員に質問です。アレルゲンリスクの調理の仕方について普段どのような観点でお話しされていますか。

**【委員】**

アレルギーの知識に関すること、アレルゲンの混入を防止すること、出来るだけ多くの子どもが食べられる献立の作成について講座で話をしています。アレルギーがあってもなるべく食べられるような給食を提供するということが、今の国の方針なので、アレルゲン食材も食材に混ぜ込まれているものは使わず、目で見てはっきりわかる献立にして安全安心を確保したうえで提供するという取組をしています。

**【委員】**

委員の言うとおりで。今回の議題と絡めて話をすると、アレルギーは、医師であっても専門医と専門医以外では知識量にずれがあり、難しい話です。調理に携わる多くの方にアレルギーに関する教育や説明はすごく難しいので、センター方式であれば一か所で話ができて、スペシャリストの養成がしやすい。それから、アレルゲン食材も食材に混ぜ込まれていない材料を使用すると食材コストがかかりますが、センター方式であれば大量に仕入れすることで単独調理場よりも食材費を安く抑えることができる。センター方式のほうがアレルギー対応の面から言えば良いと思います。また、運用をよく考えて施設の計画を立てていくのが良いのでは。

**【委員】**

運動誘発性のアレルギーの対応として、学校では給食喫食後の体育授業は控えるなどの対応をしていますか。

**【委員】**

アレルギーを持った児童生徒のいるクラスは、午後からの体育の授業は行いません。所属校が小規模なので対応できています。

**【委員】**

人数が少ないと対応できるが、多いと難しい。運動誘発性アレルギーに関して言えば、食事のあとだけでなく、直前も運動を避けた方がいい。運動誘発性アレルギーの子には、

食べたら運動するな、運動するなら食べるなど言っています。

**【委員】**

コスト比較に関して、給食センターの業務委託費用の中に配送に係るトラックや維持費も含まれていますか。

**【事務局】**

入っております

**【委員】**

コスト比較に関して、食材費のランニングコストも検討するうえで重要な要素だと思います。センター方式だと安くなる可能性が考えられますが、比較する際に検討されましたか。

**【事務局】**

センター方式の食材費については、新給食センターが昨年9月に運営を始めていますが、検証するためのデータが集まっておらず試算できないため、今回の費用比較には入っておりません。

**【委員】**

センター建設を検討する際、用地の選定と買収が一番大変だと考えますが、候補地の具体的な見込みはついていきますか。

**【事務局】**

候補地は配送の観点から交通利便性が高く、土地の費用が安いところを検討します。かつ配置バランスを考えて、有事の際には一方の給食センターが稼働できなくても他のセンターで対応できる様な用地の選定をしたいと考えております。ただし、今の段階では具体的な候補地というものは想定していません。センター方式とするならば、しっかりと検証します。

**【委員】**

土地の選定が西尾市よりも難しいと考えられる岡崎市や名古屋市、春日井市の給食施設の運営状況はどうなっていますか。

**【事務局】**

2014年調べでは名古屋市は全て自校調理式、岡崎市と春日井市はセンター式です。

**6 事務説明と閉会**

事務局より再度、今回の議題に関する意見を書面で提出するよう依頼した。

議長より閉会のあいさつがあり閉会となった。

(午後3時00分終了)